

平成28年度

# オホーツクの研究活動

研修部長 網走市立白鳥台小学校

校長 三宅直哉

## 1 はじめに

オホーツク管内小中学校長会は五つのブロックで構成されている。各ブロックでの研究成果はオホーツク管内に反映され、教育課題解決や教育実践活動の推進に活かされている。

ブロック毎の研究大会とオホーツク管内の研究大会を軸とした研究が、計画的・組織的・継続的に行われ、教職員の資質・能力や専門性の向上を図るために、校長自らの職能向上に努めている。



## 2 研究計画

### (1) 研究主題

「確かな学びの力を育み新たな知を拓くオホーツクの子の育成を目指す学校教育の推進」  
～オホーツクの大地から世界を見つめ新しい社会の形成に向けて挑戦する子どもを育む学校教育の推進～

### (2) 研究推進の基本事項

- ① 全ての学校が各研究課題には大なり小なり必ず取り組んでいる。そこで、市町村校長会として、提言の研究課題をしっかりと踏まえた中で、市町村としての取組の成果と課題が明らかになる研究を進める。※研究の3年次計画はそれぞれの市町村の抱える課題と研究課題を照らし合わせ、実態に応じた計画を立て実践する。
- ② 各分科会の課題研究を自校の経営や教育活動上の課題として、学校、児童生徒及び地域社会の実態を踏まえ、1校を経営するとの自覚に立って実践研究を進める。
- ③ 保護者や地域の学校に対する思いや願い、意見・要望等を把握して研究を進める。
- ④ 時代の進展にともなう学校や児童生徒を取り巻く状況の変化により、地域住民や教職員に求められる意識改革を踏まえた研究を進める。
- ⑤ 道小・道中学校長会、全連小・全日中学校長会の動向に広く学び、道・全国につながる研究を進める。

### (3) 管内研究大会における分科会と28年度の研究課題

- ① 第1分科会—学校経営・現職教育  
教職員の人間性と専門性を高め、意識改革を促す現職教育と校長の在り方
- ② 第2分科会—教育課程  
社会を形成する力の育成を目指す教育課程の編成と校長の在り方
- ③ 第3分科会—危機管理・連携協力  
幼保・小・中・高等との連携と円滑な接続のための組織づくりの推進と校長の在り方
- ④ 第4分科会—教育課題  
学力向上、豊かな心の育成、体力向上を目指す教育活動の推進と校長の在り方

### 3 研究の概要、研究活動など

#### (1) 第44回オホーツク管内小中学校長教育研究大会の概要

- ① 期 日 平成28年8月19日(金)
- ② 会 場 北見市ホテル黒部
- ③ 研究協議 4分科会, 3グループに分かれて協議
- ④ 講 話 『管内教育に期待すること』  
講師 北海道教育庁オホーツク教育局義務教育指導監 池野 敦 様

#### (2) ブロック研究大会(5ブロック)

- ① 網走ブロック校長研修会(網走市・斜里町・清里町・小清水町・大空町)
  - ア 期 日 平成28年7月29日(金)
  - イ 会 場 網走市オホーツク文化交流センター
  - ウ 研究協議 4分科会に分かれての研究協議及び提言(1本)の発表と研究協議
  - エ 講演講師 北海道教育庁オホーツク教育局義務教育指導監 池野 敦 様
- ② 北見郡部ブロック校長研修会(美幌町・訓子府町・置戸町・津別町)
  - ア 期 日 平成28年7月28日(木)
  - イ 会 場 訓子府町公民館「多目的ホール」
  - ウ 研究協議 小中の提言(各1本)発表と研究協議
  - エ 講演講師 北海道教育庁オホーツク教育局義務教育指導監 池野 敦 様
- ③ 北見市ブロック校長研修会(北見市)
  - ア 期 日 平成28年7月28日(木)
  - イ 会 場 北見市端野総合支所
  - ウ 研究協議 小中の提言(各1本)発表と研究協議
  - エ 講演講師 北海道教育庁オホーツク教育局義務教育指導監 池野 敦 様
- ④ 遠軽ブロック校長研修会(遠軽町・湧別町・佐呂間町)
  - ア 期 日 平成28年7月26日(火)
  - イ 会 場 遠軽町ホテルサンシャイン
  - ウ 研究協議 小中の提言(各1本)発表と研究協議
  - エ 講演講師 北海道教育庁オホーツク教育局義務教育指導監 池野 敦 様
- ⑤ 紋別ブロック校長研修会(紋別市・滝上町・興部町・西興部村町・雄武町)
  - ア 期 日 平成28年7月28日(木)
  - イ 会 場 西興部村公民館
  - ウ 研究協議 小中別の提言(各1本)発表と研究協議
  - エ 講演講師 北海道教育庁オホーツク教育局支援課長 藤田 祐二 様

### 4 おわりに

本年度は3か年計画の3年次で、まとめの年度となる。学校経営の責任者である校長の果たす役割と指導性を究明するために、成果と課題を明確にすることが求められる。学校数の減少によりブロック運営が困難になっている現状や、独自性・柔軟性の欠如など前年度までに浮き彫りとなった課題を踏まえ、市町村校長会として研究課題をしっかりと受け止め、その成果と課題を明らかにすることができた。また、各分科会の研究課題を自校の経営や教育活動上の課題と捉えて、学校、児童生徒及び地域社会の実態を踏まえ、1校を経営するリーダーとしての自覚に立って実践研究を進めることができた。これらの成果を次期研修計画に反映させ、校長としての職能を向上させるための更なる実践的な研究を進めることで、管内教育の発展、充実に努めていきたい。